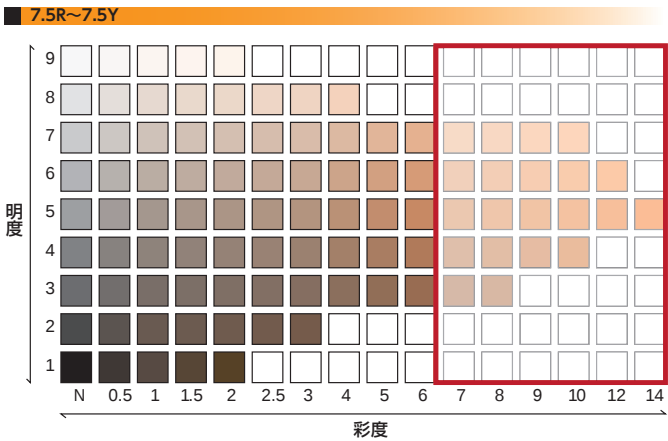


行田市景観計画—景観色彩誘導の基本的考え方

1 埼玉県景観計画における色彩の規制誘導

定量的基準：景観計画区域一律の行為制限



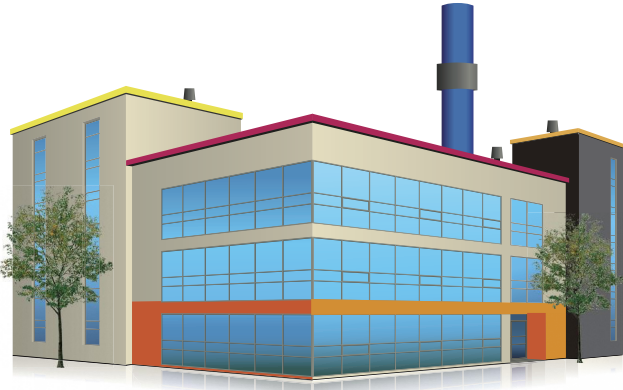
定性的基準

- ・建築物の外壁や物件の堆積の遮蔽物など、外観を構成するものは、周辺の景観と調和した素材や色彩とすること。
- ・外壁など外観を構成するものは、原色に近い色彩や点滅する照明は避けること。多色使い又はアクセント色の使用に際しては、使用する色彩相互の調和、使用する量のバランスに十分配慮すること。
- ・屋外階段は、建築物本体と調和した外形及び色彩とすること。
- ・屋上設備等は、外部から直接見えにくいように壁面、ルーバー等で囲うこと。ルーバー等は建築物本体と調和する外形及び色彩とすること。

たしかに、色彩基準にはあっているけど・・・？

規制誘導のイメージ

もやもや…



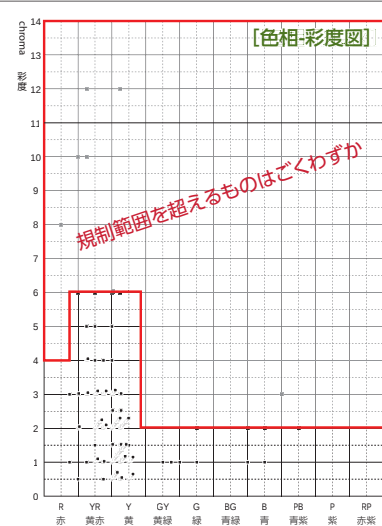
※極端な例

2 行田市の色彩景観の実態や課題

埼玉県景観計画の基本的枠組みの継承



行田市の実態や課題の反映



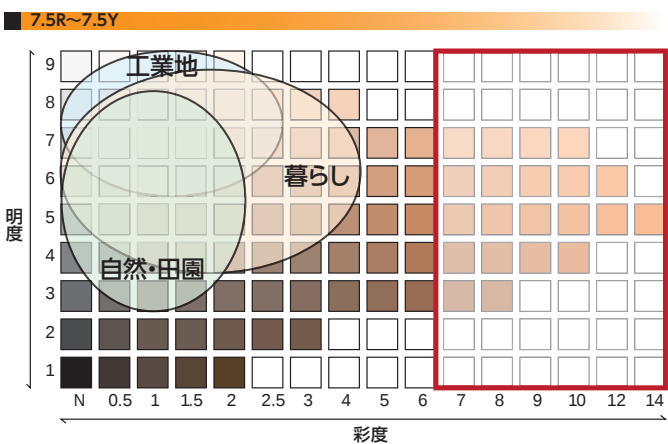
落ち着いた色彩のまとまりと地域性や場所性の創出

- ・埼玉県景観計画の色彩基準を超える事例はごくわずか
- ・基調色の制限だけでなく、色の使い方も大切
- ・行田市の地域性や土地利用ごとのまとまりを継承、創出したい
- ・特に市の歴史や自然に調和した色使いを推奨して行田らしさを伸ばしたい



3 行田市景観計画における色彩誘導の基本的考え方

市街地特性に合わせた定量的な好ましい範囲の提示

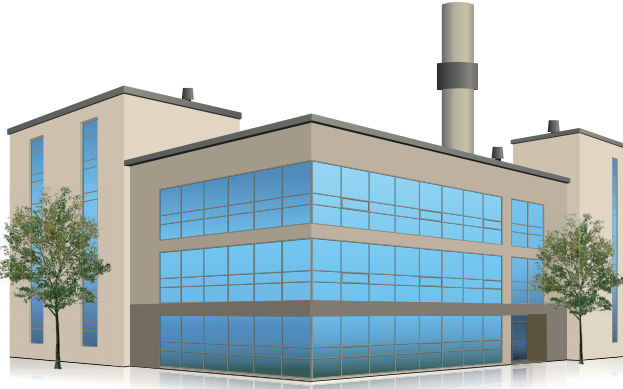


定性的基準—色を使う際の留意点等の充実 (例)

- 地域性や場所性への配慮
 - ・周辺の街並みとの調和
 - ・景観資源に隣接する場合の色彩の配慮
 - ・自然の緑を活かす色彩の使い方
 - ・透明ガラスバルコニーの取り扱い（相隣、視線干渉）
- 個別施設のデザインの配慮
 - ・アクセント色の使い方（不要な場合も多いこと）
 - ・複数色の組み合わせ（配色）や色数の目安
 - ・規模が大きくなる場合の圧迫感等の低減
- など

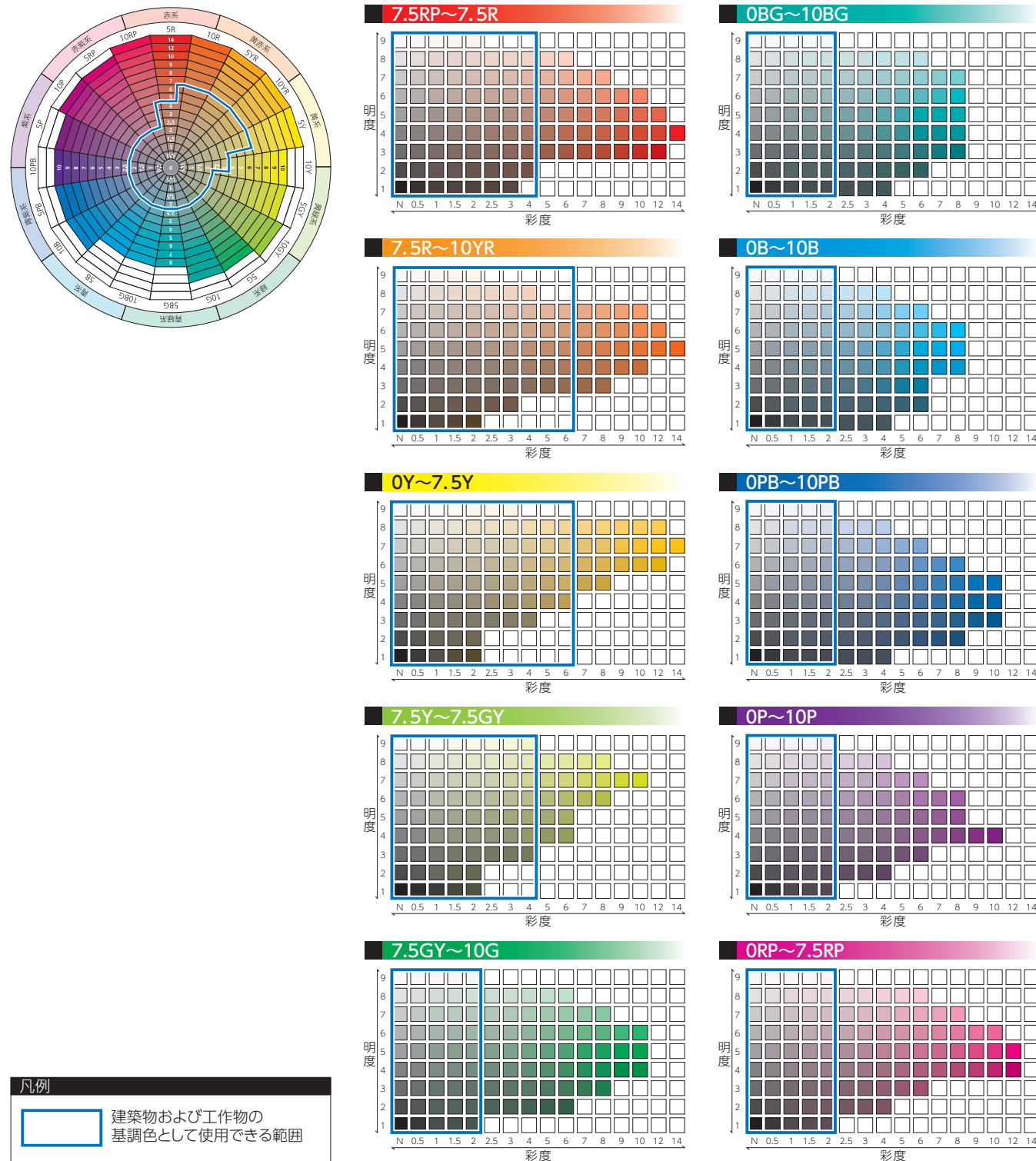
このくらい調整してくれれば行田の景観にうまく収まるね！

スッキリ！

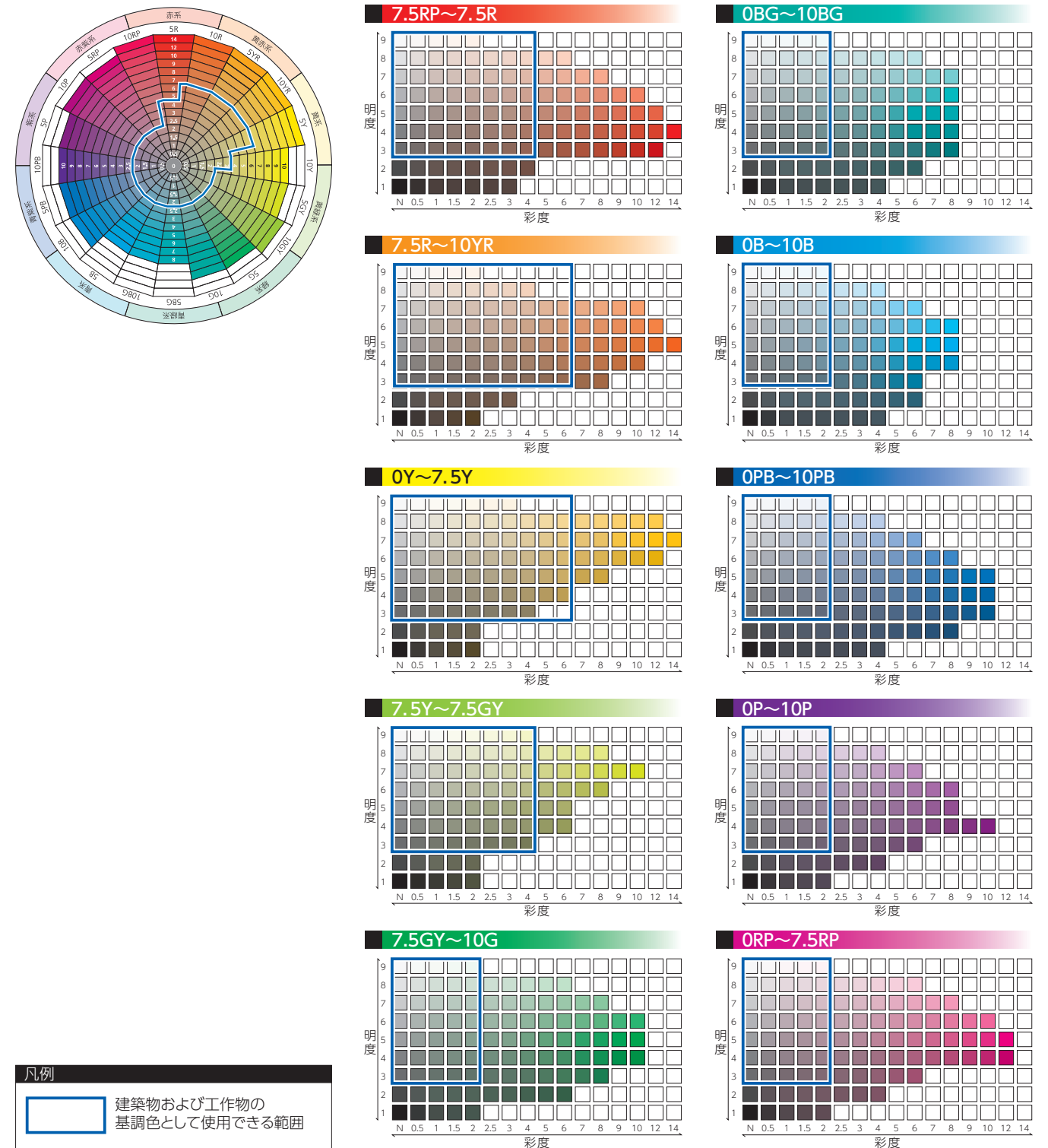


4 行田市景観計画における色彩の制限基準案

用途地域が定められている区域で使用可能な範囲			
対象	色相	明度	彩度
建築物及び工作物の基調となる色彩	7.5R ~ 7.5Y	—	6 以下
	7.5RP ~ 7.5R (7.5R は含まない) 7.5Y ~ 7.5GY (7.5GY は含まない)	—	4 以下
	7.5GY ~ 7.5RP	—	2 以下



用途地域が定められていない区域で使用可能な範囲			
対象	色相	明度	彩度
建築物及び工作物の基調となる色彩	7.5R ~ 7.5Y	2 を超える	6 以下
	7.5RP ~ 7.5R (7.5R は含まない) 7.5Y ~ 7.5GY (7.5GY は含まない)	2 を超える	4 以下
	7.5GY ~ 7.5RP	2 を超える	2 以下

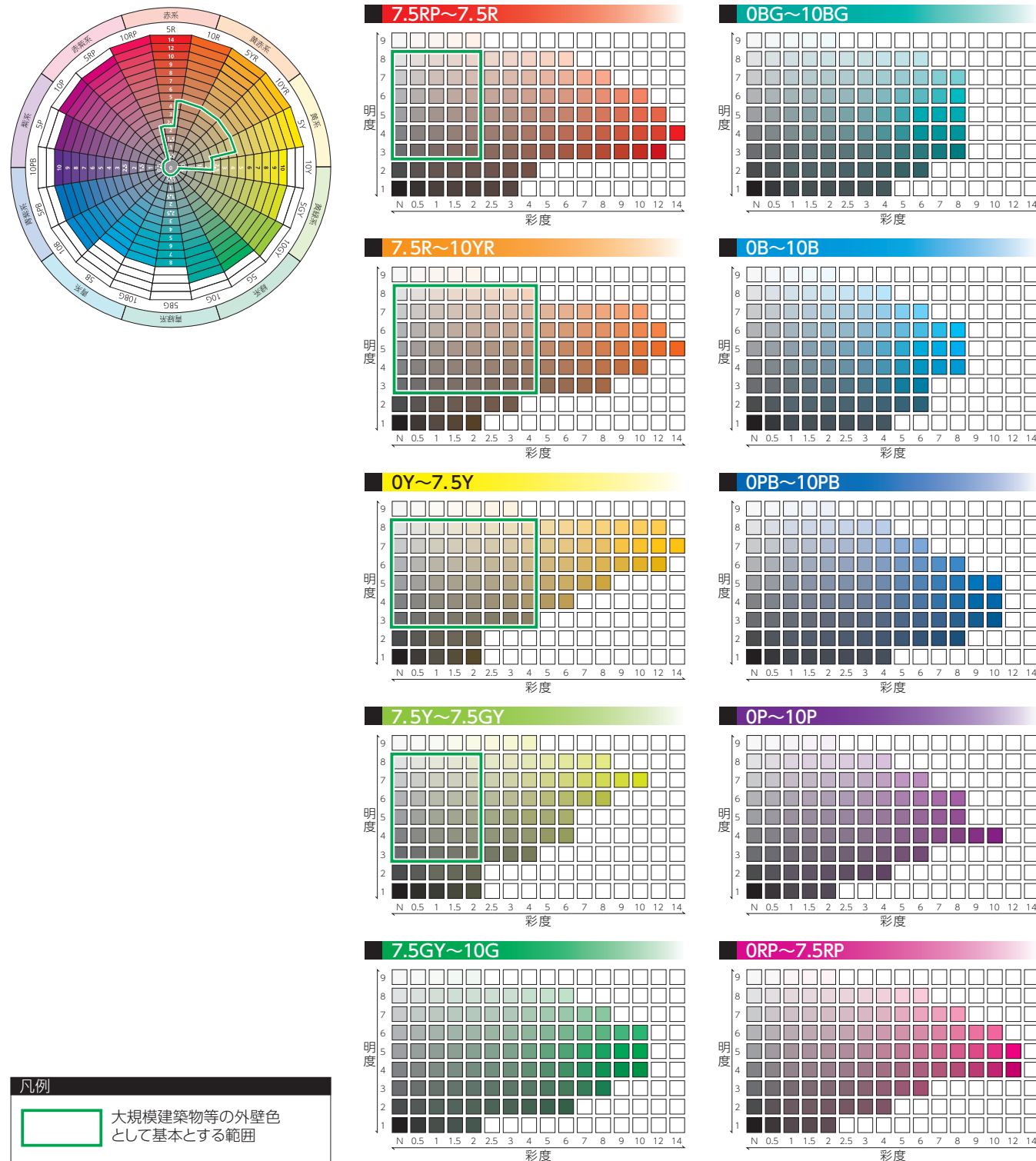


5 行田市景観計画における色彩の誘導基準案

誘導イメージ

自然や田園になじむ暖かく落ち着いた色彩

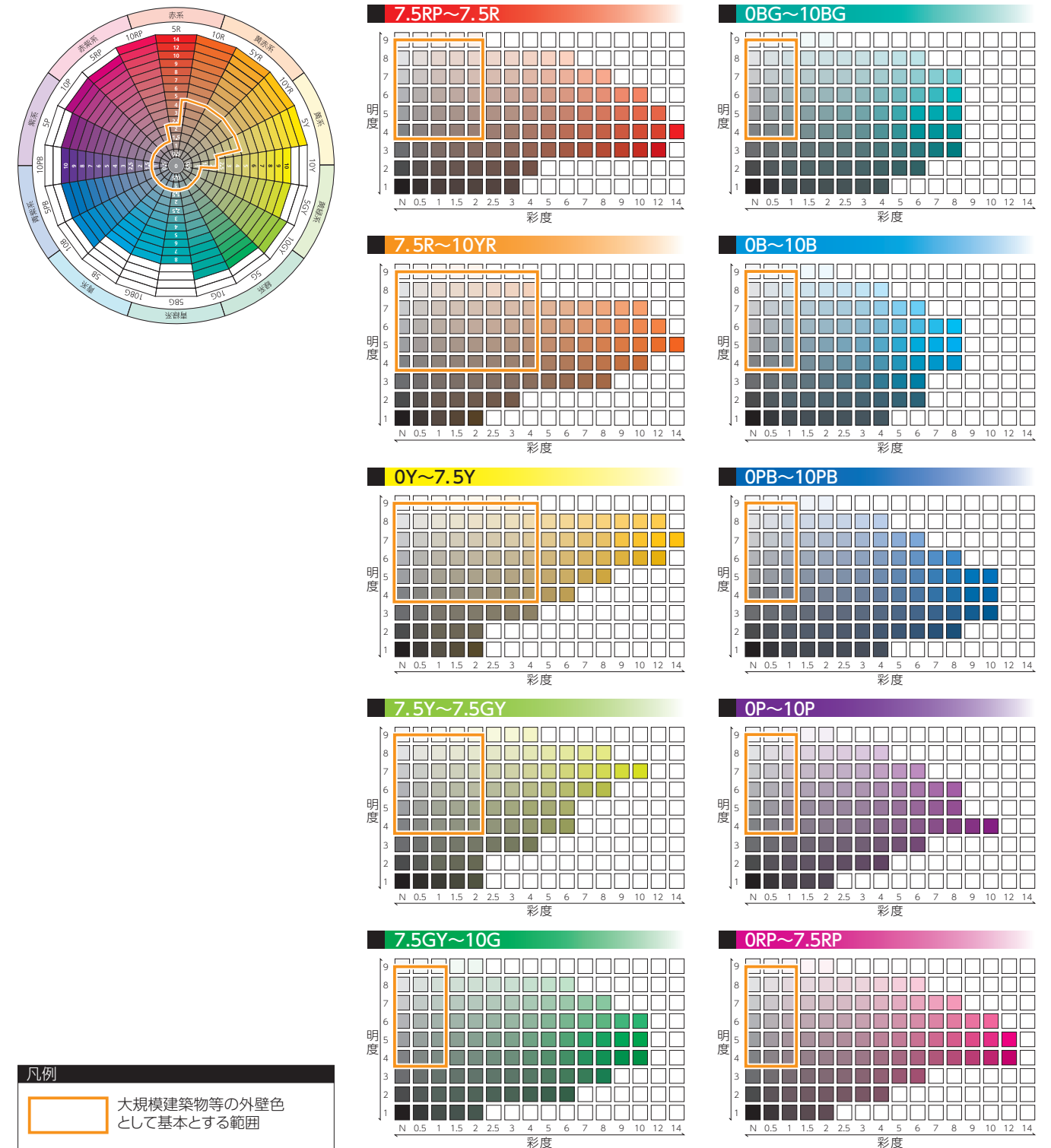
① 自然・田園景観 で基本とする範囲			
対象	色相	明度	彩度
大規模建築物等の 外壁の色彩	7.5R ~ 7.5Y	3 ~ 8	4 以下
	7.5RP ~ 7.5R (7.5R は含まない)	3 ~ 8	2 以下
	7.5Y ~ 7.5GY (7.5GY は含まない)	3 ~ 8	2 以下
	7.5GY ~ 7.5RP	—	—



誘導イメージ

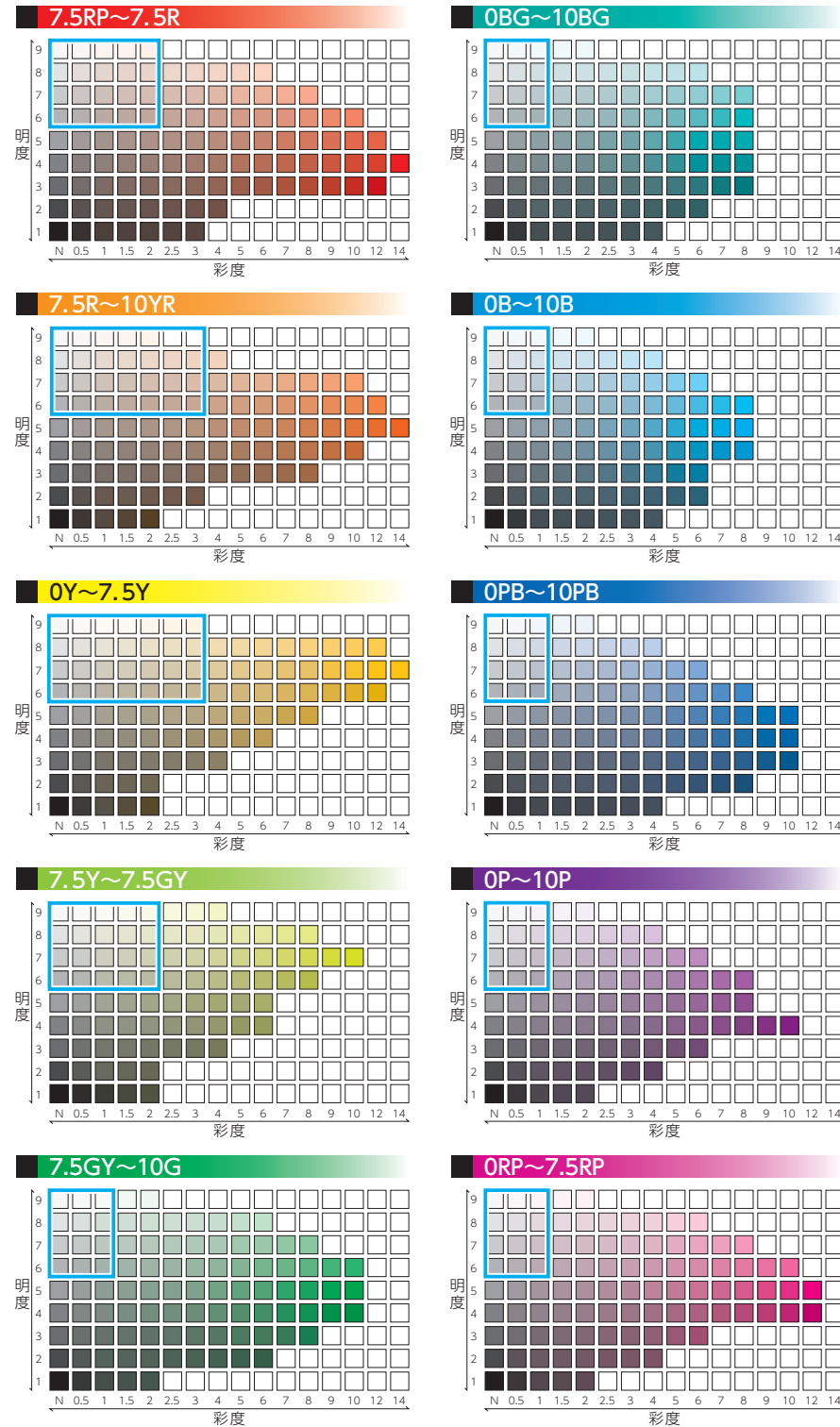
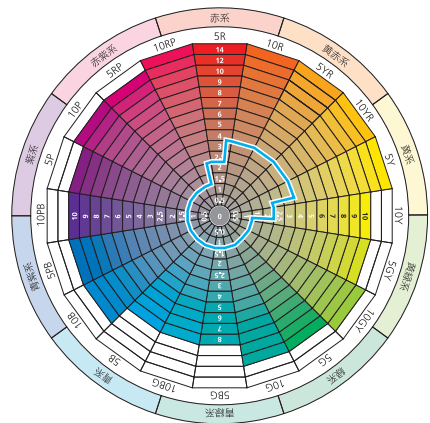
住宅地、商業地としてのメリハリの中にも品格が感じられる色彩

② 住宅地景観 ③ 商業地景観 で基本とする範囲			
対象	色相	明度	彩度
大規模建築物等の 外壁の色彩	7.5R ~ 7.5Y	4 ~ 8.5	4 以下
	7.5RP ~ 7.5R (7.5R は含まない)	4 ~ 8.5	2 以下
	7.5Y ~ 7.5GY (7.5GY は含まない)	4 ~ 8.5	2 以下
	7.5GY ~ 7.5RP	4 ~ 8.5	1 以下



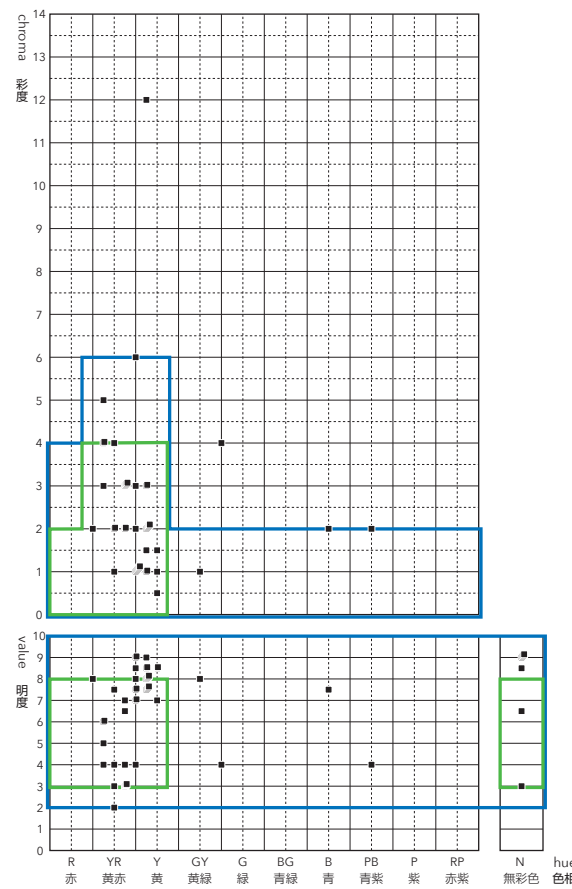
④ 工業地景観 で基本とする範囲

対象	色相	明度	彩度
大規模建築物等の 外壁の色彩	7.5R～7.5Y	6～9	3以下
	7.5RP～7.5R (7.5R は含まない) 7.5Y～7.5GY (7.5GY は含まない)	6～9	2以下
	7.5GY～7.5RP	6～9	1以下

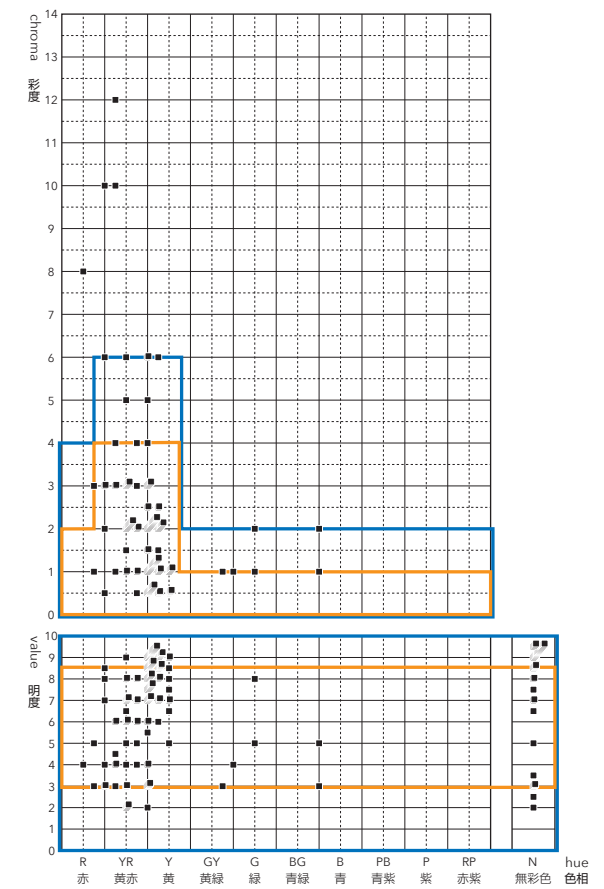


参考 現状の色彩景観（景観色彩調査結果）と色彩基準（制限・誘導）の対応状況

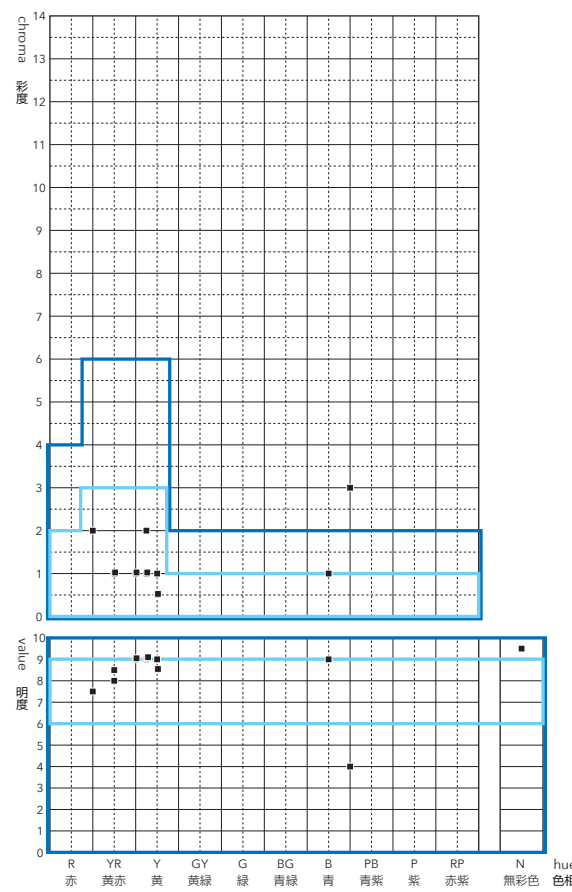
① 自然・田園景観



② 住宅地景観 ③ 商業地景観



④ 工業地景観



凡例

- 建築物および工作物の
基調色として使用できる範囲
- ①自然・田園景観で
外壁色の基本とする範囲
- ②住宅地景観、③商業地景観で
外壁色の基本とする範囲
- ④工業地景観で
外壁色の基本とする範囲

※色彩調査の対象施設のほとんどが届出対象外の小規模な建築物である。